



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年2月6日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL <https://www.daisho.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 矢野 宏一 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の業績 (2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	18,539	3.4	999	△30.7	1,008	△30.4	674	△31.4
2022年3月期第3四半期	17,921	4.4	1,442	13.6	1,448	13.3	983	13.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年3月期第3四半期	69.84		—					
2022年3月期第3四半期	101.87		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	16,677	9,446	56.6
2022年3月期	15,664	8,949	57.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,446百万円 2022年3月期 8,949百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2023年3月期	—	9.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,200	2.3	850	△1.3	850	△2.4	540	△3.9	55.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期3Q	9,868,800株	2022年3月期	9,868,800株
2023年3月期3Q	216,088株	2022年3月期	216,088株
2023年3月期3Q	9,652,712株	2022年3月期3Q	9,652,712株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、行動制限の緩和等による経済活動正常化の動きに伴い、緩やかな回復がみられたものの、資源・エネルギー価格の高騰や円安の進行により、厳しい状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、コロナ禍における巣ごもり需要の反動減や、原料などの高騰は食品メーカーに大きな影響を与え、製品への価格転嫁が相次ぎました。これにより消費者の節約志向は一段と強まり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社は、次のステップに向けた施策の立案と実行を念頭に、2025年3月期までの3か年の中期経営計画に基づく取り組みをあらたに開始いたしました。当社が発展し、次世代を切り開いていくために「『ダイショーらしさ』を追求し、企業価値の向上へ」をテーマとして、「“強み”に磨きをかけ、市場・顧客を開拓する」「強い体力づくりへの投資で飛躍の基礎を固める」「社会・社員から信頼される企業体制を構築する」という3つの戦略の柱を設定し、当社発展のための施策に注力してまいります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群の小売用製品においては、「名店監修」シリーズの『名店監修 一風堂赤丸とんこつまぜそばの素』『名店監修 麵屋武蔵だし醤油まぜそばの素』が売上を牽引するなか、「韓国フェア」などの販促活動が奏功し『ヤンニョムチキンの素』『サムギョブサルスの素』などの精肉向けの製品が好調に推移しました。更に『すきやきわりした』が国内向けのみならず海外向けにおいても売上を伸ばしました。鍋スープでは、最需要期である秋冬市場においてタレントを使用したCMなどにより販売促進に努めましたが『博多もつ鍋スープ しょうゆ味』などの主力製品については厳しい状況が続きました。このようななか、「名店監修」シリーズの『名店監修鍋スープ すみれ札幌濃厚みそ味』『名店監修鍋スープ 一風堂博多とんこつ赤丸新味』が好調に推移し、大きく売上を牽引しました。業務用製品では、『にんにく黒胡椒焼ソース』『アヒージョ風ソース』などの主力製品に加え、『お肉やわかガーリック醤油ソテーソース』などの新製品を投入し、さらにラインアップが充実した精肉向けのオイルソースが好調に推移し、大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は136億71百万円（前年同期比104.7%）となりました。

粉体調味料群においては、野菜おつまみメニュー調味料のキャンペーンを展開するなど販売促進に努めましたが、『味・塩こしょう』シリーズなどの小売用製品の販売環境は依然厳しい状況が続きました。この結果、売上高は29億22百万円（前年同期比96.1%）となりました。

その他調味料群においては、多様な好みに合わせて選べるように充実したラインアップが揃う即食製品の「スープはるさめ」シリーズと「オートミールd e」シリーズが、好調に売上を伸ばしました。この結果、売上高は19億45百万円（前年同期比106.9%）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、185億39百万円（前年同期比103.4%）となりました。利益につきましては、増収を達成したものの、原材料価格や燃料価格の上昇の影響が大きく営業利益は9億99百万円（前年同期比69.3%）、経常利益は10億8百万円（前年同期比69.6%）、四半期純利益は6億74百万円（前年同期比68.6%）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ10億13百万円増加し、166億77百万円となりました。固定資産が総資産の49.7%を占め、流動資産は総資産の50.3%を占めております。資産の変動は、主に「受取手形及び売掛金」が28億35百万円増加し、「現金及び預金」が18億14百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ5億15百万円増加し、72億31百万円となりました。流動負債が負債合計の74.1%を占め、固定負債は負債合計の25.9%を占めております。負債の変動は、主に「買掛金」が6億74百万円増加し、「賞与引当金」が2億14百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ4億97百万円増加し、94億46百万円となりました。純資産の変動は、主に剰余金の配当1億73百万円の支出と四半期純利益6億74百万円の計上により「利益剰余金」が5億円増加したことによるものです。自己資本比率は56.6%となり、前事業年度末に比べ0.5ポイント下降しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「2022年3月期 決算短信」(2022年5月12日に公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 3. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,831	1,016
受取手形及び売掛金	2,984	5,820
商品及び製品	984	1,065
原材料	368	393
その他	92	113
貸倒引当金	△9	△15
流動資産合計	7,252	8,393
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,571	2,437
土地	2,687	2,801
リース資産(純額)	757	719
その他(純額)	1,012	1,001
有形固定資産合計	7,029	6,960
無形固定資産	117	93
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,265	1,234
貸倒引当金	△0	△4
投資その他の資産合計	1,265	1,229
固定資産合計	8,412	8,283
資産合計	15,664	16,677

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,847	2,522
1年内返済予定の長期借入金	42	—
未払金	1,835	1,808
未払法人税等	197	207
賞与引当金	435	221
その他	433	601
流動負債合計	4,791	5,360
固定負債		
退職給付引当金	490	509
役員退職慰労引当金	701	—
長期未払金	—	704
その他	731	656
固定負債合計	1,923	1,870
負債合計	6,715	7,231
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	7,742	8,242
自己株式	△114	△114
株主資本合計	8,878	9,378
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	70	68
評価・換算差額等合計	70	68
純資産合計	8,949	9,446
負債純資産合計	15,664	16,677

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	17,921	18,539
売上原価	10,242	11,091
売上総利益	7,679	7,448
販売費及び一般管理費	6,236	6,449
営業利益	1,442	999
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	3	3
不動産賃貸料	5	5
その他	8	11
営業外収益合計	16	20
営業外費用		
支払利息	10	11
その他	0	0
営業外費用合計	10	11
経常利益	1,448	1,008
特別利益		
投資有価証券売却益	—	14
特別利益合計	—	14
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
特別損失合計	0	1
税引前四半期純利益	1,448	1,020
法人税、住民税及び事業税	464	346
法人税等合計	464	346
四半期純利益	983	674



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

該当事項はありません。